地球温暖化と国際的な取り組み

温暖化を防ぐために、世界の国々はどのように協力してきたか

二酸化炭素などの温室効果ガスが増える → 地球の平均気温が上がる → 海面の上昇・豪雨や干ばつなどの異常気象

国際的な取り組みの歩み

1992年 気候変動枠組条約

採択され、地球サミット（リオデジャネイロ）で各国が署名した

1997年 京都議定書（COP3）

先進国に削減の数値目標を義務づけた。発展途上国には削減の義務はなかった

2015年 パリ協定（COP21）

すべての国が削減目標を出して取り組む。2度より十分低く、1.5度におさえる努力（2016年発効）

COP：条約を結んだ国々の会議（締約国会議）。毎年開かれる。

立場による主張の違い（例）

先進国

発展途上国の排出も増えている。すべての国がともに減らすべきだ。

発展途上国

これまで多く排出してきた先進国が先に減らし、資金や技術で支えるべきだ。

海面上昇の影響を受けやすい島国

国土が失われるおそれがある。急いで大きく減らすべきだ。

主張は代表的な例で、同じグループの国でも考えは一つではない。気温の目標は産業革命の前と比べたもの。